# 日本白血病研究基金 賞名の由来

荻村孝特別研究賞

1983 年 5 月、荻村孝氏（オギムラタカシ・32 歳）が慢性骨髄性白血病との厳しい闘病生活の末永眠致しました。 荻村孝氏の父、一（ハジメ）氏、母、和代（カズヨ）氏は「われわれが経験したこの悲しい思いを繰り返してはいけない。これから社会のために貢献できる、というときに他界した息子のために、息子の名前で社会に貢献したい。」このように考えるようになりました。

そして、ご両親は、息子を奪った白血病をなんとしても撲滅したいとの願いをこめ、準備した 5000 万円を基金として、1990 年に「荻村孝記念難病研究振興基金」が設立されました。 その後、「荻村孝記念難病研究振興基金」は、より公益性の高い基金をめざし、名称を「日本白血病研究基金」と変え、1992 年「公益信託日本白血病研究基金」は成立しました。 その際、それまでの基礎を築いた、荻村一氏、荻村和代氏の想いを永遠に残すよう最高賞として荻村孝氏の名前を残しました。

基礎、臨床、全分野を対象とした研究に授与されます。

清水保信賞

群馬県出身の清水保信氏は上京され一人で苦学され、その後、サラリーマンとして高度成長の日本を支えていました。 その忙しいサラリーマン生活の中でも、リタイア後は妻の芳恵様と共に世界を旅行する夢を見続けていました。 しかし、夢の実現前に、芳恵様は、白血病を患い逝去されてしまいした。 妻と二人で楽しく過ごす予定であった老後を、お子様がいな清水氏は、一人寂しく過ごしておられました。

そのご、妻を奪った白血病の撲滅への願いをこめて、これまで築いた全財産を、日本白血病研究基金への寄付を遺言に残されました。法定相続人の方々も遺言に同意下さいました。 故清水氏より平成１０年に２億９２５万円をご寄付頂いたことを由来とする賞です。

基礎・臨床、全分野を対象とした研究に授与されます。

クレディセゾン賞

入会金・年会費無料の日本白血病研究基金カード《セゾンカード》をご使用いただく毎にご本人へのポイント還元としての使用額 0.5%をご寄付頂きます。それと同額を株式会社クレディセゾン様の社会貢献としてご寄付頂くことにより、ご使用額の１％（個人カードの場合）を自動的にご寄付頂くことを原資とした賞です。

現在、600 余名の個人カード保有者より、ご支援頂いております。

株式会社クレディセゾン様は、個人カード以外にも、小規模法人向けの法人カード、大手企業に向けたコーポレートカードもお作り頂き、使用額の一定の割合を、日本白血病研究基金にご寄付頂いております。 個人カードも含め全寄付額は約 200 万円（平成３０年実績）となっております。

基礎・臨床、全分野を対象とした研究に授与されます。

臨床医学特別賞
日本白血病研究基金の受賞者はすでに 500 名を超え、白血病撲滅へ向け幅広い分野で活躍されております。 その受賞者の活躍を高く評価頂き、また受賞した先生の多くが所属されている一般社団法人 日本血液学会、一般社団法人 日本小児血液・がん学会から白血病撲滅の研究に取り組む研究者を推薦頂き、これに基づき選考された研究に授与されます。

ザ・レジェンド賞
阪神大震災の後、青木功氏がアメリカのゴルフツアーに参加したとき、アメリカのプログルファーから、日本のプロゴルファーはどのような復興支援をしたのかと問われることがありました。 日本のプロゴルファーとしても社会貢献活動が必要であり、そのような姿勢を日本に根付かせるために、自らが発起人となった、チャリティーゴルフトーナメントを考えるようになりました。 このチャリティー目的を、青木氏はかねてより気にかけてきた、病と闘う小児の健気な気持ちに寄り添うため「小児医療の発展」と定めました。 この青木氏の想いに日野皓正氏、王貞治氏も賛同され、共に発起人となり、ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント（2009～2018 開催）が実現しました。 このチャリティーは、今後を担うであろう、多くの若いプロゴルファーも参加し、また芸能界などの著名人も多く参加されました。 このチャリティーは１０年間続ける事を目標に開催されましたが、開催１０年目にあたる 2018 年無事終了いたしました。 この発起人の想いである「小児医療の発展」を期待された、ご寄付を原資としております。
小児科分野の研究グループを対象とした研究に授与されます。

毎日賞
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団様が、推進しているキャンペーン「生きる」に寄せられた、小児がんや難病の子どもの支援や治療研究の支援を目的とした音楽家、芸術家、市民から寄せられた「小児がん征圧募金」からのご寄付を原資とし、平成３０年度に設立されました。
小児科分野の研究を対象とした研究に授与されます。

井手幸子賞
2018 年に 87 歳で患った急性白血病で逝去された、東京都西東京市在住の故井手幸子様より遺贈頂いた 2000 万円を原資としています。 研究助成対象について、日本白血病研究基金運営委員会で議論の結果、井手様のお孫様位の世代である、若手奨励賞の特別賞として令和２ 年度より、井手賞を設けることにしました。

小林登賞
２０１９年１２月２６日９２歳でご逝去された、日本白血病研究基金初代運営委員長である小林登先生のお名前を冠した賞として 2022 年より開始されました。
小児造血器腫瘍などの治療成績の向上や QOL の向上に資する調査・研究に従事する臨床研究グループを対象とした研究助成です。

ティーエスアルフレッサ賞
中国地方全県に医療用医薬品、医療機器、検査試薬等の安定供給とともに医療現場で必要とされる情報も的確に提供されている、ティーエスアルフレッサ株式会社様からのご寄付を原資として令和５年度より新設された賞です。
血液腫瘍(白血病・リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群等を含む)に関する基礎的、臨床的分野の研究を対象にした研究助成を行います。

高久史麿賞
高久史麿先生は 2022 年 3 月 24 日 91 歳でご逝去された。日本白血病研究基金設立に厚生省等、行政との調整にご尽力頂き、設立時からご逝去されるまで、日本白血病研究基金運営委員でありました。　高久史麿先生は、東京大学名誉教授、前自治医科大学学長、前医学会長をお勤めになり、基礎と臨床まで、幅広くご活躍された先生でした。
ワケンホールディングス株式会社様からのご寄付を原資として、高久史麿先生のお名前を冠した賞として令和６年度に設定されました。
基礎・臨床、全分野を対象とした研究に授与されます。